



プレスリリース 決定稿

関係者各位

2020年7月1日 V1.2
株式会社DXパートナーズ

日本企業の多くが失敗する「デジタル変革 (DX)」。
その科学的な実践方法論「DXの科学」を
DX 専門ベンチャー企業「株式会社DXパートナーズ」が開発、
7月1日より「DXの科学」に基づくサービス提供を開始しました。

株式会社DXパートナーズ (代表取締役: 村上和彰 所在地: 福岡市中央区 以下、当社)^{#1}は、当社が独自に開発しましたDX実践方法論「DXの科学」に基づく4つのサービスの提供を本日より開始しました。当社はこの「DXの科学」、ならびに、DXをオープンイノベーションの手法で実践する「オープンDX」の2つの方法論で、大企業のみならず中堅・中小企業におけるDXを成功に導く支援を行っていきます。

《「DXの科学」とは?》

「DXの科学」は、企業活動を構成するプロセス (意思決定プロセス、ビジネスプロセス、イノベーションプロセス、等)、組織、そして、人材を対象にそのデジタル変革 (DX) を科学的に実践するための方法論です。DX視点での企業診断から始め、DXを実践するためのレシピの作成、そして、当レシピに基づいた「人材のDX」および「プロセスのDX」へと進みます。具体的には、以下の4つのサービスから構成されます。

- **DX アセスメント:**DXに挑戦する企業の「いま」と「理想 = なりたい姿」を独自の指標で診断して見える化。
- **DX レシピ:**DX アセスメントの結果明らかになったギャップを埋めるべく、DX レシピ (処方箋/調理法) をデザイン。
- **DX ブートキャンプ:**DX アセスメントの結果、DXを担う「DX人材」の育成 (人材のDX) が必要な場合に実施。DX人材に必要な“3つの力”であるデータ分析力、データ利活用力、および、AI力を養成。DXレシピに基づいてカリキュラムをカスタマイズし、当社独自に開発した“3つのD”から“3つのI”を生む“3つの力”養成プログラムで育成。
- **DX ラボ:**DXに挑戦するDXチャレンジャー企業、および、それを支援するDXサポーター企業とで、約10名程度のチーム「DXラボ」を編成。DXレシピに基づいて、「プロセスのDX」の設計図である「DXキャンバス」をデザイン。リーンスタートアップ^{#2}の手法に則り、DXをアジャイル実践 (「アジャイルDX」)。3ヶ月を目処に「DXのMVP (Minimum Viable Product: 必要最小限の機能を備えた製品/サービス)」を完成させて評価。



一般的な DX チャレンジャー企業の場合、図1にありますように、①-1 DX アセスメント → ①-2 DX レシピデザイン → ② DX ブートキャンプ (人材のDX) → ③ DX ラボ (プロセスのDX) といったカスタマージャーニーを歩むことになります。

“DXの科学” アウトトラック

“DXの科学”ではプロセス、組織、そして、人材を対象に、以下のツールを駆使してDXを科学的に実践します。

- DXアセスメント
- DXレシピ
- “3つのDIF” フレームワーク
- DXブートキャンプ
- DXラボ
- DXキャンパス
- アジャイルDX

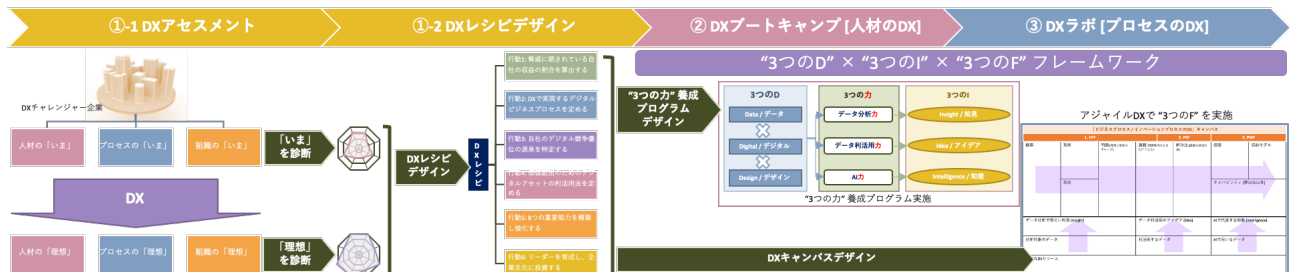
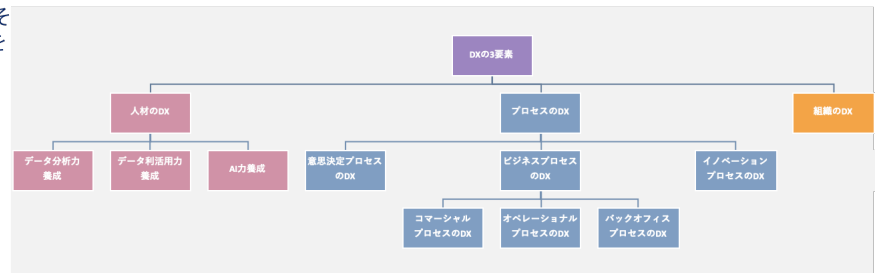


図1: 「DXの科学」全体像

《背景》

デジタル変革 (DX) の成功率について、一説には「5%以下」と言われています^{#3}。なぜこのように成功率が低いのでしょうか？ 様々な理由が挙げられていますが、当社は以下の4つが主な理由と考えています。

- 無関心: 自社ないし自社の所属する業界にDXや「デジタル破壊 (DD: digital disruption)」は無関係 (または、まだ影響が小さい) と誤解してしまい、DX自体に取り組んでいない。
- 矮小化: DXをITやAI、IoTといった技術の問題と矮小化してしまい、DXに対して誤った方法論で取り組んでしまった。
- 勇み足: 逆に過大評価してしまい、「大きな問題に対して大きく構えて取り組む」という誤りを犯してしまった。
- 手段の目的化: DXはそもそも企業活動や事業の価値を高めるための手段であるが、いつの間にかDX自身が目的化してしまった。

そこで、当社が提唱するのが、以下の「DX成功のための三原則」です。

- 原則1: 自社や自社の属する業界において「デジタル」が及ぼす脅威と好機を診断・分析し、正しく認識する。すなわち、「彼を知り己を知れば百戦殆からず」の原則。
- 原則2: DXは技術の問題ではない。DXの対象を正しく認識し設定する。まずは、企業活動を構成するプロセス、組織、そして、人材の3領域に狙いを定める。
- 原則3: 「大きな問題に小さく、かつ、素早く取り組む」。小さくても良いので現場での



DX の成功事例、証左を蓄積する。その後、徐々に全社に展開していく。すなわち、「隗より始めよ」、「将を射んと欲すれば先ず馬を射よ」の原則。

当社の「DX の科学」は、上記の「DX 成功のための三原則」を具現化し、DX を確実に成功に導くために当社が開発した科学的な実践方法論となります。

《料金プラン》

当社は、「DX の民主化」、すなわち、日本企業に適した、かつ、大企業だけでなく中堅・中小企業でも実践可能な DX の方法論を開発、提供することをミッションにしています。本日提供を開始しました「DX の科学」の4つのサービスもこのミッションに則り、以下の料金プランでの提供を予定しています。

サービス		標準価格
DX アセスメント		300,000 円
DX レシピ		500,000 円
DX プート キャンプ	DX 概論 「DX の科学」	エグゼクティブセミナー フルサイズセミナー
	データ分析力養成プログラム (3 日間)	200,000 円
	データ利活用力養成プログラム (3 日間)	400,000 円
	AI 力養成プログラム (3 日間)	各プログラム毎に、 ・ 9 人以下: 1 人 200,000 円 ・ 10 人以上: 一律 1,000,000 円
	DX ラボ体験ワークショップ (標準 2 日間~5 日間)	個別見積
DX ラボ (標準 3 ヶ月)		個別見積

※ 本価格は 2020 年 7 月 1 日時点のものです。価格は変更される可能性があります。

当社は今後も福岡・九州域の企業、特に中堅・中小企業の DX を支援してまいります。

以上

株式会社 DX パートナーズ
〒810-0041 福岡市中央区大名 2-6-11 FGN 内
電話: 090-2396-5678 (村上)
メールアドレス: team@dxpartners.co.jp
www.dxpartners.co.jp

#1: 株式会社 DX パートナーズは、国立大学法人九州大学、公益財団法人九州先端科学技術研究所、株式会社チーム AIBOD、株式会社あしたの学び Lab を前身に 2020 年 4 月 1 日に福岡市に設立されました。

#2: 「リーンスタートアップ」とは、起業家エリック・リース氏が著書「リーン・スタートアップ」(日経 BP 社、)の中で提唱した起業手法。新たなアイデアやコンセプトをまず MVP (Minimum Viable Product、必要最小限の機能を備えた製品)として形にして、その「構築-計



測-学習」のサイクルを素早く何度も繰り返しながら、プロダクトやサービスが市場に受け入れられる成功率を高めて行く。

#3: <https://www.bain.com/insights/orchestrating-a-successful-digital-transformation/>